



石神地区のぼんでんは今年の干支のうさぎ



前郷・森先地区のぼんでんは伝統のバショウ



2月18日に横手市の金澤八幡宮で、ぼんでん奉納が行われました。美郷町と横手市の児童生徒による子どもぼんでんに続き、美郷町から参加した石神地区と前郷・森先地区の若衆が威勢良く雪の坂道を駆け上がり、冬景色に映える色鮮やかなぼんでんを奉納して五穀豊穡と家内安全を祈願しました。

金澤八幡宮 ぼんでん奉納

金澤八幡宮のぼんでんは上部に特徴があり、布が蝶結びにされた優美な風情から「腰巻ぼんでん」「女ごぼんでん」と呼ばれています。しかし、奉納時の先陣争いは激しく、その様子から「金沢けんかぼんでん」とも表現されます。この日も、数千人で揉み合う若衆の熱気を後押しするように、観客からは「がんばれ!」という大声援が上がっていました。

野中町内会の 紙風船上げ

2月13日に野中町内会で「紙風船上げ」と「どんど焼き」が行われました。紙風船は五穀豊穡や家内安全を祈り放たれます。同町内会で小正月行事の保存会長を務める畑山源太郎さんによると、畑山さんのお父さんが小さいころには、美郷町内でも紙風船上げを行う地域がいくつかあったようです。しかし残念ながら、現在はそれほど行われていません。野中町内会の紙風船上げも長い間行われて

いませんでしたが、平成16年から地元の皆さんの手によって再開されました。畑山さんは、「子どものころに父親から紙風船の話聞いて、若い人たちに残したい、今の子どもたちにも覚えてほしい」と思い、再開させました。こうやって人が集まることにより、地域のつながりも深まるのではないかと思っています」と語ります。

暖められた空気でふわりと空に舞い上がった紙風船は、野中町内会の皆さんの目に幻想的な世界を映し出しました。



塚自治会の 雪まつり

2月13日に塚自治会で恒例の雪まつりが行われ、子どもたちが餅つきや綱引きなどを楽しみました。まつりの始めに行われた神事では、この春高校受験を迎える生徒の合格祈願や厄払い

が行われました。塚自治会では自治会が発足した昭和52年から毎年雪まつりを行っています。同自治会長の加島徹さんによると、現在はスポーツ少年団や部活動など、子どもたちの活動も多岐にわたるため、日中に行う行事は以前に比べ少なくなりました。このような背景から、塚自治会では小正月行事のどんど焼きにあわせて雪まつりを行っています。加島さんは、「小さい頃は雪の山にトンネルを掘り、びんを流してよく遊びました。今の子どもたちにもたくさん遊びを楽しんでもらいたいと思っています」と語ってくれました。自治会内外から約150名が訪れた今年の雪まつり。会場には子どもたちのにぎやかな声が響き渡りました。